

伝承あすか

第二十九号

飛鳥の文化の創造的保存

古都飛鳥保存財団

常務理事 田中 充

飛鳥に関わり三年近くになりま
す。古代の飛鳥を彷彿とさせる風景
を見るたびに、飛鳥の辿ってきた時
代を感じ、また、そこで生まれ育つ
た様々な文化に触れる素晴らしい
機会をいただいています。

て天つくつ 天つくつ
て天つくつ 天つくつ
て天なもで 天なもで…

というお囃子が印象に残る南無
天踊り。以前、新春互例会の席で披
露された踊りを見せていただき、舞
台の上で皆さんが農作業の衣装を
まとい、天に向かって雨乞いや大雨の
お礼をする踊りは、飛鳥の里山の中
で日々の生業である米づくりに携わ
る人々の切実な思いやお礼の気持を

表現したものであり本当に
印象に残るものでした。

この南無天
踊り。皆さん
はよくご存じ
のことと思いま

すが、文化協会の会誌「明日香」、保
存財団の「明日香風」、更に民俗芸
能の橋本裕之氏の論文等から少し
紐解いてみますと、その起源は「日本
書紀」の皇極天皇紀に記述のある天
皇の飛鳥川上流での雨乞いにあると
されていますが、いづころから村民に
伝えられたのか定かでないようです。
ただ、稲刈の飛鳥川上坐守須多伎
比売命神社や橘の春日神社に奉納
されていた南無天踊りの絵馬からは
江戸時代にはこの踊りがあったと推
定されるようです。そして大正も
しくは昭和初期まで続いていたので
はないかと思われます。

こうした歴史がありながらしば
らく途絶えていた南無天踊りです
が、昭和五十四年に発行された「な
もで踊り 中間報告(明日香村教
育委員会、明日香村文化協会)が契
機となって、村民の中に復活しよう

という機運が生まれ、復活プロジェ
クトが始まったそうです。ただ、復元
には相当苦勞され「単純でも容易で
もなく数年を越す息の長さを必要
とするもの(笠園超誓氏)」であったの
です。

手写しの文書を基に五部構成の
歌詞を、約四年をかけて紆余曲折
を経て確定し、次に歌の節回しを古
老の聞取りと雅楽の先生の協力得て
復元し、最後に振付を完成させ、こ
うした大変な苦勞の末、昭和六十
三年について完成し「南無天踊り復
元達成の年として、明日香村史上に
特記される(会誌「明日香」十号)」こ
ととなりました。

かつて飛鳥保存財団の理事であつ
た作家の川端康成氏が昭和四十七
年の総合案内所の起工式の祝辞の中
で「保存は、創造を抜きにしてはあ
りえない。創造する力に支えられて
こそ、美しきものは永遠に美しく、
その真価を發揮するものである」と
述べられています。歴史的風土だけ
でなく、伝承芸能の世界においても
南無天踊りは創造的復元でよみが
えり、それが新たな芸能の価値を生
み出していると思います。そしてこの
踊りは明日香村民の誇りであり、こ

れからも末永く踊り継がれていく
ことでしょう。

明日香村伝承芸能保存会はこの
南無天踊りだけではなく、江戸時
代の文政年間に創案されたという二
弦琴の一種である八雲琴、飛鳥時代
に隋から伝来したと考えられる飛
鳥蹴鞠、飛鳥に在住されていた万葉
学者の犬養先生が広められた万葉
朗唱、これらの伝承芸能を継承すべ
く保存活動をされています。これら
はどれも飛鳥の歴史的風土や景観



飛鳥川上坐守須多伎比売命神社の南無天踊りの絵馬
(明日香村民俗資料館展示)



奈良県率万葉文化館前での定例公演の様様

があつてこそ、そしてその地で創造的に継承されていることでその価値も上がっているのではないかと思ひます。

明日香村ではこのほかに村が主体となつて昨年から伎楽プロジェクトも始まりました。これからの明日香は引き継がれてきた伝統を更に創造的に保存、継承していく力を持つていくように思ひます。その力を後押しするため、古都飛鳥保存財団も引き続き明日香村伝承芸能保存会の活動を応援していきたいと思ひます。

やくもこと 八雲琴

「八雲琴を教えて」

中井 まゆみ

本年度は聖徳中学校の明日香学の「八雲琴」の希望が六名もありました。近年、希望者が少なく寂しく思つていましたが、三年生と合わせて十名となりました。熱心に学ぶ姿にこちらも頑張つて指導しました。琴を弾くだけでなく、歌もきれいな声で歌えるようになり教えがいがありました。

三年前から夏休みに学童保育の子どもたちに八雲琴の体験教室を行っています。七月二十九日と八月十八日に実施し、一年生から六年生まで計六十名が参加しました。暑い中での指導は大変でしたが、子どもたちの生き生きとした様子に元気をもらえました。体験後の感想「とても難しかったけど楽しかった」「難しかったけどまたやりたい」「うまく弾けてうれしかった」「いつもより大変だけど楽しかったです」「さくらさくら」を最後まで弾けて良かった」などを読むと、大変だけどまた

来年も続けようと思ひました。その後、夏休みに体験した小学生やその友達などがたくさん八雲琴を習いに来てくれました。

八雲琴の楽譜はカタカナで書いてありますが、まだカタカナを学校で習っていない一年生もいました。小さい手と体で一息懸命八雲琴を弾こうと努力していました。なかなか音が出なくて悩んだり、楽譜が読めなかつたり、弾けなかつたりと苦労していました。お稽古を重ねていくうちに、上手に弾けるようになるので続けてくれたらと願っています。

また高取高校から「世界遺産登録推進イベント」に参加するため、八雲琴の指導の依頼がありました。高取高校まで十一月から七回数人で指導に行きました。

全くの初心者四名でしたが本人たちの努力と私たちの特訓の成果で、何とか「菅搔六段曲(すががきろくだんぶり)」「奈良の都」の二曲を弾けるようになりました。一月十八日奈良市バスセンターのレクチャーホールで二回演奏しました。

八雲琴を見るのも、聴くのも初めてという方が多く、八雲琴の音色に感動された様子でした。

大変忙しい一年でしたが、これか

らも八雲琴を広めるべく精進していきたいと思ひます

「八雲琴の先生方へ」

明日香学・聖徳中学校三年

和佐 文香

私たち四人が二年生だったころ、三年生が一人もいなかったため、本当にゼロからのスタートでした。初めて触る和楽器、読み慣れない楽譜、馴染みのない音名など、小さいころから音楽をしていた私でも苦労しました。

一番思い出に残っているのは、やはり始めて四人だけで演奏した二年



令和7年10月24日 聖徳中学校 聖中祭

生の時の聖中祭でのステージです。自分たちで、最後まで曲が演奏できるかとても不安だったけれど、演奏後に、たくさんの方から温かい言葉をかけて頂き、とてもうれしかったです。

先生方にはこの二年間でたくさんのお話を教えていただきました。私はこれからも音楽と共に生きて行くつもりなので、楽器は違いますが、教えていただいたことを生かして行きたいと思います。二年間どうもありがとうございました。

* * *

松本 結芽

八雲琴は私が以前習っていた十三弦の琴とは違って、とても難しく慣れるのに苦労しました。でも先生方の優しくわかりやすい指導のおかげで、技術がどんどん上がっていき、八雲琴を弾く時間がとても楽しいものへと変化して行きました。

特に速い曲での替手は楽譜を追うのがやっとなので、苦労していた際、ゆっくりと練習をさせてくれたり、替手のみで見てくれたりと、わかりやすく丁寧に指導してくださり、かなり上達することができました。発表時には私たちを励ますような温かい声もかけていただきました。



弾ける曲や量も多くなって自信ができました。だからこそ、この明日香学の時間が無くなってしまふのはすごく悲しかったです。今では八雲琴は衰退してしまった楽器ですが、明日香村の無形文化財として指定されていること、こんなにも素敵な楽器だということを、伝えていきたいなと思っています。

八雲琴がこんなにも魅力的なものだと教えてくださり、長い間熱心に指導していただき、本当にありがとうございました。

上島 康生

最初は興味があっただけで、できると思っていなかったけど、明日香学の授業で教えてもらっているうちに、できるようになりました。

練習しているときは難しく、楽譜や音を探すのでひと苦労だったけど、練習してうちにできるようになって、八雲琴をするのが楽しくなりました。

イベントに出させてもらったり、きれいな衣装を着させてもらったりと、貴重な経験をすることもできました。

たった一週間に一度しかない中で、上手になることができたのは先生たちが、優しく教えてくれたからです。わからないことがあると丁寧に教えてくれたり、ゆっくり教えてくれたりしてくれたりおかげで、難しかったけど、嫌にならずにすることができました。

二年間という短い期間だったけど、楽しくすることができました。教えてもらったことを伝えていきたいです。

* * *

亀谷 幸生

最初は音楽が好きという理由で、琴をやってみようと思いましたが、けれど、はじめると、楽譜を見ながら



八雲琴の詳細は、次のQRコードをスマホなどのカメラで読み取り、表示して下さい。



演奏することが、とても難しかったです。でも先生方の熱心な指導のおかげで、どんどん上達して行くことができました。
もしも次やることがあるなら、替手や、もっと難しい曲や、琴の楽しさを、色々な人に伝えていきたいです。まだわからないことが多いので、また機会があれば教えていただきたいです。



なもでおど

南無天踊り

南無天踊りに魅せられて

木村泰子

南無天踊りに入会してから十年経ちました。先に会員として活動していた友人に誘われたことがきっかけでした。

初めて練習を見学したとき、太鼓や笛の音が体に響き、踊りの所作ひとつにも、祈りの心がこめられていることを感じ、自然と私もやりたいと思ったのを覚えています。

南無天踊りは、古くから明日香に伝わる雨乞いの踊りで、日本書紀に記された皇極天皇の時代の出来事にも由来を持つ、由緒ある伝承芸能です。地元に残された絵馬や語り継がれる記憶を大切にしながら、今日まで受け継がれてきたことに深い感銘を覚えます。

活動してきた中で、何よりも私の支えになったのは、先輩方の丁寧な指導です。所作の意味、伝承に携わる者としての姿勢まで教えていただきました。一生懸命に練習した時

間、本番で戴く拍手、どれもが励みになり、続けてこられた理由になっています。

最近では、少数ではありますが、保育園児や小学生・中学生が入会してくれていることも心強く感じています。

私の誘いに興味を持った友人も、この度入会してくれました。

私の時と同じように練習を見学して、すぐに魅了されたようで、世代を超えて同じ踊りに向き合う姿は、南無天踊りの魅力そのものだと思えます。

十二月六日に、インバウンドの観光客の前で南無天踊りを披露する機会がありました。

場所は奥明日香(入谷)にある古民家で、この規格に合う素晴らしいロケーションでした。

踊りの由来や意味についてはブログガイドの方が丁寧に説明してくださり、観客の皆さんは理解をもつて鑑賞されていたように思います。

真剣に見入る姿が印象的でした。鑑賞後には、太鼓や篠笛を実際に体験していただきました。

初めて触れたのか、日本で伝統的に使われてきた楽器に笑顔が広が



り、自ら音を出すことで、南無天踊りを身近に感じてもらえたように思います。体験を通じて伝わる喜びや驚きは、伝承芸能の力を改めて実感させてくれました。
これからも学びながら、楽しみながら続けたいと思っています。

詳細は、次のQRコードをスマホなどのカメラで読み取り、表示して下さい。



あすかけまり 飛鳥蹴鞠

乙巳の歳

飛鳥蹴鞠代表
服部光晴

中国古代殷の頃から暦や時間を効率且正確に管理するために十周期の「十干 甲乙丙丁戊己庚辛壬癸」と十二周期の「十二支 子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥」を順に組み合わせ六十年又は六十日で同じ組み合わせに戻る仕組みの事(ウイキペディアによる)。還暦とも呼ばれます。

西暦六四五年乙巳の歳・皇極天皇四年は日本歴史上の一大転換の年でした。六月一二日(旧暦)板蓋宮大極殿にて蘇我入鹿が中大兄皇子と中臣鎌足らに暗殺されました。その翌日には蝦夷が甘樫の丘の御殿に火を放ち自害しました。この日以降中大兄皇子と鎌足は皇極天皇の弟軽皇子を第三六代孝徳天皇として即位させました。左大臣には鎌足、右大臣には阿部内麻呂と大海人皇子も加わった布陣で、唐の制度を手に本に次々と改革を進めていきます。改新の詔を發布。年号の導入「大化」、土地・人民を国が管理する「公地公



ればならない大変な時期でした。

この一年半前に、乙巳の変につながる大きな出来事がありました。飛鳥寺西槻木の広場での皇室正月行事蹴鞠の会の席上のことです。日本書紀の記述によれば、蹴鞠の輪に自ら望んだ中大兄皇子、鞠を蹴った拍子に皇子の靴が脱げ落ち宙を舞って遠くへ飛んで行った。末席に控えていた神事を司る下級官吏の中臣鎌子(鎌足)の許へ。この皇子の靴を懐に



近つ飛鳥博物館

民」、「租庸調」の税制度、「戸籍・計帳」の作成などです。対外的には強大な勢力で、東アジアに君臨する唐の対策にも苦

大事に持つて皇子の所へ進み出で恭しく差し出しました。このことに依り二人は親しくなり、国を憂う気持ちとを共有、南淵請安の塾で教えを乞うことになりました。この同期生には入鹿もいました。この為二人は入鹿の眼を逃れるため談山で密議を重ねました云々

二〇二五年は六四五年から一三八〇年前、つまり二三回目の乙巳の歳に当たります。各地で記念イベントが行われました。

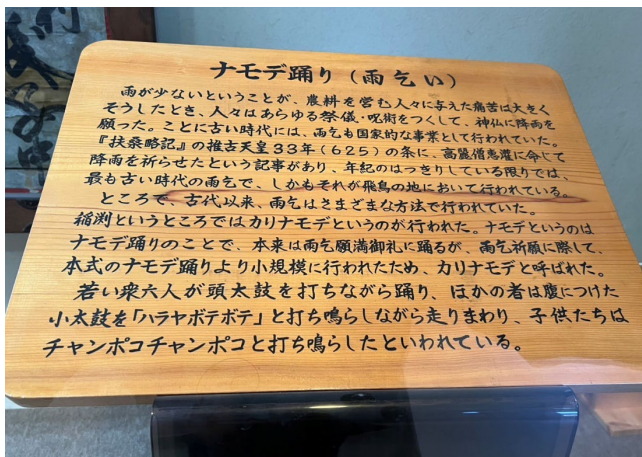
飛鳥国営公園キトラ地区では乙巳の変に関わる講演会。大阪府立近つ飛鳥博物館では乙巳の変にちなんだ写真展(飛鳥蹴鞠も出展)と五回の連続講演会。鎌足公を祭神としてお祀りする談山神社は祭事について、飛鳥国営公園高松塚公園館では古代衣装展、飛鳥蹴鞠はこのうち国営公園キトラ地区で一月一六日、近つ飛鳥博物館では隣接する近つ飛鳥風土記の丘公園で

三月二二日それぞれ蹴鞠披露と体験会で参加しました。

詳細は、次のQRコードをスマホなどのカメラで読み取り、表示して下さい。



明日香村 石舞台公園にて



万葉朗唱は、令和七年六月六日に、大阪万国博覧会に参加いたしました。

令和の万葉大茶会は、大伴家持ゆかりの地を巡って、2020年から開催されています。

万博で第一部・第二部を六月七日に、明日香村を舞台として、第三部が行われました。

また六月六日には、第一部の

万葉朗唱

まんようろうしやう

万葉朗唱の詳細は、次のQRコードをスマホなどのカメラで読み取り、表示して下さい。



第二部は、令和の万葉フェスティバル〈Expoアーリーナ「Matsuri」(万博会場内)〉

奈良県福谷副知事により、世界遺産を目指す「飛鳥・藤原の宮都」の紹介や、本村の伝承芸能保存会の皆様とともに、万葉衣装着用による行進や写真撮影などのイベントに参加しました。

会場となるフェスティバルステーションにおいて、世界遺産を目指す飛鳥・藤原を舞台とした短編映画「Boy Meets...」を上映しました。



令和七年六月六日 大阪万国博覧会にて

たまゆら

「伝承あすか」第十七号より

人の心を種として

明日香村教育委員会

教育長 田中祐二

十一月のある早朝、犬を散歩させようと戸外に出ました。凜と冷えた大気の中、早暁の空が澄んだ青みを増しつつあり、西の方に目をやると、朝日を受けて紅く染まった葛城山の上に真っ白な満月が浮かんでいました。東の山の上には、太陽はまだ顔を出しておらず、朝焼けが残っていました。ふと、柿本人麻呂の歌が浮かびました。

東の野にかぎろひの立つ見えて

かへり見すれば月かたぶきぬ

ひむがしのにかぎろひのたつみえて

東野 炎 立所見而

かへりみすればつきかたぶきぬ

反見為者 月西渡

東の野に陽炎の立つのが見えて、振り返って見ると月は西に傾いてしまった。

巻第一 四十八 柿本人麻呂

(岩波書店「新 日本古典文学大系 萬葉集一」より)

十二月の満月の頃になると、今年もまた宇陀(阿騎野)の丘に、かぎろひを見るために多くの人が集まることでしょう。

歌の「月西渡」から考えると、人麻呂が見た月は満月だったのか、それとも右下が欠け始めた月だったのか、はたまた下弦の月が中天から西の方へ傾き始めた頃だったのか。この萬葉集一の脚注によると、「あずま野のけぶりの立てる所見てかへり見すれば月かたぶきぬ」との訓み下しもあったそうです。漢字で書かれた万葉集の歌を訓み下すのは難しく、これが絶対に正しいとは言えないでしょう。それ故に、専門家でなくても、あれこれと自由に想像しながら自分なりの解釈を考える面白さが残されていると思います。

この本の序文の一節に、『鎌倉時代の学僧仙覚の万葉集註釈には、「先此集ヲ万葉集ト名ツケタルハ何意ゾヤ、コレハヨロズノコトノハノ義也」ト自問自答し、古今集・仮名序ノ「ヤマトウタハ、人ノ心ヲタネトシテ、ヨロヅノコトノハトゾナレリケル」という有名な文章を引いた。心の表現である歌を、植物の種から生じた

葉のようなものだと言えらるることを一証として、「万葉集」という書名を、沢山の木の葉の如き歌の集と理解したのである。』と記されています。

喜怒哀楽に加えて、寂しさ、侘びしさ、愛しさ、恋しさ、切なさ、憎らしさ、妬ましきなどなど、人の心に生じる様々な感情が、種となって、詩歌や舞踊などの文化・芸能が芽生え、枝葉を茂らせ広げていく。その種が次の世代へと受け継がれ、新たな心が加わって、更に進展していく。文化の伝承は心の伝承であると言えるのではないでしょうが。

多くの方々が、明日香村の文化・芸能の伝承に関わってくださいています。仕事や家事で忙しい中で時間をつくり、研鑽を積み、少しでも多くの人へ、少しでも次の世代へと伝える努力をしてくださっていることに、改めて敬意を表し、心から感謝申し上げます。

人の心を種として芽生えた文化・芸能が、心から心へ、手から手へと、長きに亘って伝えられ受け継がれるとともに広がっていきますよ

うに、皆様のご尽力を切に願うところですが。これからもどうか宜しくお願い申し上げます。



平成28年11月26日 「式年造替奉納演奏」 於：春日大社

万葉恋歌

ああ、君待つと

原作詞 万葉集より

額田王・磐姫皇后・播磨娘子

歌詞構成・作曲 荒井満

歌 小林幸子

監修 万葉文化館 初代館長

中西進

平城遷都千三百年祭(2010)に於いて、五首の万葉集をもとに発表されました。

ぬかたのおおきみ

① 額田王 (巻8・488)

ああ 君待つと

わが恋おれば

わがやどのすだれ

「すだれ」うごかし

秋の風吹く

いわのひめのおおきさき

② 磐姫皇后 (巻2・856)

ああ 君が行き

けながくなりぬ

山たずね「たずね」

むかえか行かむ

待ちにか待たむ

③ 磐姫皇后 (巻2・86)

ああ かくばかり恋ひつつ

「恋ひつつ」あらずは

ああ たかやまの

いわねしまきて 死なまし

「死なまし」ものを

はりまのをとめ

④ 播磨娘子 (巻9・1777)

ああ 君なくは

なぞ 身は装はむ

くしげなる黄柳(つげ)の

「つげの」をぐしも

とらむともはず

いわのひめのおおきさき

⑤ 磐姫皇后 (巻2・87)

ああ ありつつも

君をば待たむ

打ちなびく「なびく」

わが黒髪に

霜の置くまでに

① 額田王(巻8・488)

ああ 君待つと

わが恋おれば

わがやどのすだれ

「すだれ」うごかし

秋の風吹く

現代語訳

① 君を待って恋しく思っていると、我が家のすだれを動かして秋風が音を立てる。

② あなたが旅に出て、ずいぶんと日が経ちました。山道を探して、迎えに参りましょうか、それとも待っていきましょうか

③ このようにはかり、恋に苦しんでいないで、高い山の岩を枕として、死んでしまいたいものを

④ あなたが居られずして、どうして、わが身を装いましょう。箱に大切にしまおう黄柳(つげ)の小櫛も、手に取ろうとは思いません

⑤ 居つづけて、あなたを待って、いよう。長く靡く、この黒髪に、霜が置くようになるまでも

小林幸子

「万葉恋歌 ああ、君待つと」は、

次のQRコードより、ユーチューブでお聞きたいだけです。



「万葉恋歌 ああ、君待つと」は、令和八年度定例公演にて、五月から毎回歌っています。(各月の第二土曜日)

定例公演

会場 奈良県立万葉文化館

前期 四・五・六月

後期 九・十・十一月

時間 各月の土曜日に実施

時間 十三時半〜十四時十五分

万葉朗唱 第二土曜日

八雲琴 第三土曜日

南無天踊り 第四土曜日

飛鳥蹴鞠 (不定期)

高塚公園・石舞台公園

「伝承あすか」第二十九号

発行 令和八年四月

明日香村伝承芸能保存会

会長 脇田初枝

編集 明日香村伝承芸能保存会

題字 「伝承あすか」勝川喜昭書